

パシフィック・インビテーション 奮戦後紀

団長：山口 真人

シドニーより帰国しました。

児玉選手と東坂選手はこれから大阪に。

ともあれ両選手は本当にお疲れ様でした。そして記録達成、おめでとう！

にしても今回の遠征はボクにとっても役員として参加するうえでとても印象深いものでした。

二人ともベンチプレスの記録達成をミッションとしていましたが、なんと前日にシラッとパワーリフティングの試合だと伝えられ...

しかし、そこでより一層のファイティングスピリットにスイッチオン。

名実ともに世界記録達成のチャンスだからです。

JPA を代表するこの二人は竹馬の友でも。しかしながらスタイルは全く対極。児玉選手は豪快で細かい事は気にしない。ビールがとにかく大好き。一方の東坂選手はここ6年間毎晩同じメニューの食事とワインをたしなむストイック。ただ二人が素晴らしいのは互いに高め合っている、ほど良い距離感。



それぞれの試合で一番盛り上がった場面は児玉選手がベンチプレスの世界記録を達成した時でもなく、潰れてしまったスクワットを第3試技で必死の形相で挙げた時。
東坂選手が第1、第2ともになぜだかびくともしなかったベンチプレスをこれも第3試技で挙げた時。



大勢詰めかけた観客の皆さんばかりかスポッター、オーストラリア協会、他国の招待選手や陪審席まで拍手喝采！まさに「ドラマチック」

文句のつけようがない実績ときっと気高く見えたらう記録保持者たちが形振り構わず愚直に立ち向かう、そんな姿が人の心を打つ瞬間を一番近くで目撃出来て本当に幸せでした。



今後もこのような国際大会でひとりでも多くの日本選手が躍動する事を心より願う。
ともあれ今回オーストラリア協会に感謝の言葉を言い尽くしたのだろうか？

惜しむらくはバンケットの時にせめてラグビー強豪国の応援歌でもある「ウォルチング・マチルダ」をなぜ自慢の美声？で披露してあげられなかったのか...
でも、大丈夫です。

きっとパワーリフティングの神様が(いたとしから)「次はそうしなさい」とボクに宿題を与えてくれたのでしょう。